3 b < \$ - \$ 1 L X Apr. 2018

4月2日(月)神戸大学附属図書館学生チームULiCS [季刊発行] https://lib.kobe-u.ac.jp/about/ulics/

2018年1月22日第4回まごまご読書倶楽部が人文科学図書館で開催された。まご読書倶楽部となるでまご読書倶楽部とたっていたのではないたまである。「読書会」と聞くとしていると聞いていると聞いていると聞いていると聞いていると聞いていると聞いているといいで、本を持ち寄るとはもしい、参加資格もないではいるというにはいる。「はいるないではいる。」というには、一般にはいる。「はいるないではいる。」というにはいる。「はいるないではいる。」というにはいる。「はいるないではいる。」というにはいる。これにはいる。。これにはいる。これにはいる。これにはいる。これにはいる。これにはいる。これにはいる。これにはいる。これにはいる。これにはいる。。これにはいる。これにはいる。これにはいる。これにはいる。これにはいる。これにはいる。これにはいる。これにはいる。これにはいる。。



し、お茶を飲んだりしながら本好きの人たちが話すので気軽に参加できる。第3回までは、総合・国際文化学図書館や国際文化学部キャンパスで開催されていたが、今回はまごまご読書倶楽部の活動を知ってもらうために、他のキャンパスにも進出するという試みを行った。今回のテーマは「児童文学」。子供の頃に読んだ本や思い出の本、今の読書観に影響を与えている本などをそれぞれ持ち寄り、約10名の参加者同士でまごまご話した。ちなみに今までに取り上げられたテーマとしては「水」「旅」「ジェンダー」などがある。

一口に「児童文学」と言ってもその幅は広く、そして深い。絵本から漫画、古典、物語について分析した本まで持ち寄られた本はさまざまであった。私自身子供の頃、特に中学時代に読んだ本は今でも心に残るものとなっている。まごまご読書倶楽部は、他のキャンパスにもさらに展開していく予定だ。今春には新入生向けにも開催される。 興味を持った方はまごまご立ち寄っていただきたい。 文学部1年 畠田

紹介された書籍

『物語と伝説の植物 鉢植えでも楽しめる 四十種の栽培ガイド』榛原昭矢著、新紀元社 / 『ドリトル先生航海記』ヒュー・ロフティング作、井伏鱒二訳、岩波書店 / 『銀河鉄道の夜 童話集 他十編』宮沢賢治作、谷川徹三編、岩波書店 / 『新美南吉童話集』新美南吉著、岩波書店 / 『飛ぶ教室』ケストナー著、丘沢静也訳、光文社 / 『赤毛のアン』モンゴメリ著、村岡花子訳 / 『あしながおじさん』ウエブスター著 / 『若草物語』オールコット著 / 『小公女』バーネット著 / 『ゲド戦記』ル=グヴィン著、清水真砂子訳、岩波書店 / 『すてきな三にんぐみ』トミー・アンゲラー作、いまえよしとも訳、偕成社/ 『アタゴオル玉手箱』ますむらひろし、偕成社 / 『トムは真夜中の庭で』フィリパ・ピアス作、高杉一郎訳、岩波書店 / 『スーホの白い馬 日本傑作絵本シリーズ』大塚勇三著、赤羽末吉絵、福音館書店/ 『王への手紙 上・下』トンケ・ドラフト著、西村由美、岩波書店

COLUMN

「こんな筈では」と思った時 一新入生への図書館のススメ



まずは入学おめでとう。これから4年間、いや大学院に進むとそれ以上大学に籍を置くことになる。オリエンテーションを経て学部の概要を学び学問の基礎や語学を中心に学ぶことになるだろう。また所属した学部とは直接関係のない教養科目も履修しなければならない。新入生といっても結構忙しい。そんなある日、ふと「こんな筈では」と思う時がくるかも知れない。自分の思っていた大学のイメージあるいは学部のイメージからかけ離れ、授業が面白くないと感じる時があるかも知れない。そんなとき、図書館に来て欲しい。



大学の図書館に入ると、そこには様々な本が置いてあり、その膨大な数に圧倒されるだろう。だが詳しく見ると、本は一定の分類法に従って番号順に並べてあることが分かる。歴史学なら200、経済学なら330、物理学なら420というふうに。自分の関心のあるテーマの分類番号をまず確かめ、その番号の書架に足を運んで欲しい。そこには入門書から高度な専門書まで区別なく並んでいる。まず読みやすいものから手にとって読み始めれば良い。



ここで大学にどんな図書館があるか紹介しておこう。 学部は10あるが、図書館は9館。そのうち6館は六甲台・鶴甲地区に、他の3館はそれぞれ楠・名谷・深江地区にある。とび抜けて大きい中央図書館といったものはないが、各館は学問分野ごとに特色ある本を所蔵している。社会科学系図書館、自然科学系図書館、人文科学系図書館、医学分館、海事科学分館といったように。こう言えば、大学の図書館はバラバラだという印象を抱くかもしれない。しかし本はすべてインターネットで結ばれており、デリバリーといってどこの図書館からも取り寄せることができる。9つの図書館全体が一つの図書館を構成していると思えばいいだろう。



大学に入り「こんな筈ではなかった」とふと疑問に思った時、まず近くの図書館に足を運んで欲しい。そこでそんな疑問のいくつかを解決するヒントが得られるだろう。

写真は上から順に、総合・国際文化学図書館ラーニングコモンズ、人文科学図書館、 人間科学図書館、海事科学分館。

人文学研究科修士1年 紙谷



プラハ便り#2:

「モーツァルトとプラハ」

前号(#1)に引き続き今回もまた映画の話から入ろう。アメリカ資本の映画は、ときどきチェコでも撮影を行う。彼らがチェコを選ぶのは、中世の景観がそのまま残された街並みや、緑の映える大自然のためであり、『ミッション:インポッシブル』('96)や『幻影師アイゼンハム』('06)を始めとして、意外



なところでは『ナルニア国物語/第1章: ライオンと魔女』('05)にもチェコで撮影されたシーンがある。そうした映画群の中でもとりわけ有名なのは、モーツァルトを題材にした『アマデウス』('84)だろう。この映画はプラハでほとんどの撮影が行われた。

ちょっと待て、あの映画はウィーンが舞台のはずだろうと思った教養ある貴方は正しい。どうやら監督がチェコからの亡命者だったことや、旧市街の保存具合がウィーンより良好だったからなど、色々な要因があったらしい。映画内ではモーツァルトが劇場でオペラの指揮を取るシーンがあるが、それもまたプラハのエステート劇場で撮影されたという。とはいえ、史実においてモーツァルトがプラハと全くの無関係だったという訳ではない。むしろ、モーツァルトの作品は保守的なウィーンよりも、プラハで人気を博していた。モーツァルト自身もプラハが気に入っていたのか、『ドン・ジョヴァンニ』を始めとしたいくつかの後期作品の初演をプラハで行っている。

1月某日、そのエステート劇場でモーツァルト作『後宮からの誘拐』が上演されると知り、足を運んで見ることにした。旧市街と新市街のちょうど境目付近に位置するこの劇場の外観や内装は、新古典主義らしい堅牢さと燦爛さを兼ね備えた荘厳な造りで、特に劇場内の天井から吊るされた独特の形状をした巨大シャンデリアには目を奪われる。作品のあらすじ紹介はWikipediaに任せるが、この日は幕が上がる直前に、俳優の一人が



当日に急病で倒れたため急遽代役を立てたというアナウンスがあった。しかし、ミスがあっても大目に見て欲しいという謝罪とは裏腹に、わずか数時間しか練習する猶予がなかったという代役の俳優も完璧な演技で、劇場いっぱいに響き渡る美声に魅了されるばかりだった。

ちなみに、ウィーンのオペラは3ユーロ出せば立ち見席で鑑賞できることで有名だが、プラハのオペラは学生割引を使えば最上級の席でも3,000円程度という破格の安さで購入できる。正装する必要もないので、良い席でじっくり見たいという方でも手を出しやすいのではないだろうか。

国際協力研究科修士1年 小林

大学で4年間利用してきた中で見つけた図書館の楽しみ方を一つ紹介したいと思う。図書館の散策である。散策といっても、各地の著名な図書館を巡るとか、目当ての企画展示を求めてわざわざ足を運ぶとかいった高尚な?ものではない。例えばテストが迫り寸暇を惜しみ参考書に目を通したい…しかし薄志弱行、同時に眠気も迫り、あるいはくたびれてしまう。そんなとき席を立ち図書館の中を一通り歩いて回ってみるのだ。普段は決して読まない分野の本が並んだ書架へいくと新たな興味の湧くきっかけになる。文庫でしか持っていなかった本の単行本版を見つけて、こんな装丁だったのだと気づくのも面白い。そうしているうちなんとなくやる気が戻ってくるような気がするので、これはなかなかおすすめな方法なのですがどうでしょうか。

宣伝になってしまうが、そんなとき ついでにULiCSが定期的に発行して るこのThe ULiCS TIMESや、季節ご とのおすすめ本展示にもぜひ目を通 していただきたいと思う。

理学部4年 奥藤





ULiCSからのお知らせ

ULiCS 毎週木曜日にイベント開催!

4月12日(木): お昼休み ULiCS説明会@鶴甲第一LC (LC = ラーニングコモンズ)

4月14日(土): お花見

4月19日(木)

- お昼休み: ULiCS活動@部室- 4限後ごろ::読書会@鶴甲第一LC

4月26日(木)

- お昼休み: ULiCS説明会@鶴甲第一LC- 4限後ごろ: 新入生合同図書展示@総合・ 国際文化学図書館

どなたもお気軽にご参加ください!

うりこスタンプ



ULiCSメンバーも一緒に、

鋭意ラフ画作成中! 完成をお楽しみに!





連絡先情報

部室は自然科学系図書館2Fです。

入部希望・見学のお問い合わせは下記 までご連絡ください!

アドレス:

libr-students@edu.kobe-u.ac.jp

★THE ULiCS TIMESのバックナンバーは、 附属図書館HPより、ホーム>神戸大学附属 図書館について>**附属図書館学生チーム**

ULiCSについて

★記事執筆者の所属は、2017年度時点の 学年で表記しています。